

---

# 悪ふざけシリーズ

脳好き人間

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

悪ふざけシリーズ

### 【著者名】

NO683N

脳好き人間

### 【あらすじ】

悪ふざけで書いた短編集です。思いつきを書きます。僕は、これを「メディーだと信じていますが、もしかしたら「メディーでないものもあるかもしれません。ごめんなさい。

## バクテン

俺がスーパー・マーケットでバイトをして早い年。実は、最近氣になつてゐる人がいるんだ。

いつも帰り道、バクテンをしてゐるあの女。

今日もそいつはやつて來た。楽しそうに魚売り場で魚を見ている。そして、商品を並べてゐる俺を見つけると、ニヤリと笑い、口を開いた。

「すみません。このイクラ、こへりっ。」

やはり、こゝう來たか。シシコリ、シシコリを入れたい。

「そつ……えーと、一百八十円です。」

「わむこわつー」と、シシコリを入れたかつたが、ふと、店長で言つたことを思い出す。次、客にシシコリを入れたらバイトクビ、だつたな。

実は、昔、客にドロップキックシシコリで全治一週間の怪我をさせてしまつたことがあるのだ。

「…………あつがとつわこまく」

不満そうな表情で礼を言われる。すみません、俺には、シシコリを入れることは出来ないんです。

とにかく、仕事の続きをしないとな。えーと、十五分でレジと交代だ。

レジの仕事に交代してすぐ、その人が現れた。

カゴには小さなお菓子が一つだけ、ちょこんと鎮座していた。

そして、やはりこちらをニヤリと笑いながら見ている。まさか、俺をからかう為だけにここに来てるんじゃないよな？

「三十円がいつ！？」

突然腕をつかまれた。そして、バーコードを読み取る機械を腕に押し付けられる。

「あなたは、いくらですか？」

「こいつ、いかれてやがる！

「すみつ…………俺は商品じゃねえよつー！」

ドロップキック的中。

「……………ありがと！」

初めて、満足げな顔で礼を言われる。

それにしても、危なかつたぜ。もう少しで、「すみませんが、僕は商品じゃないです」って「シッ」と入れるところだった。

いやー、バイトクビにされたるところだった。

あれ、店長がこちらに走つてくるだ？

「ひひー。お客様にシッ」と入れるなと言つていただろー。貴様、何をしてくるー？」

「ぐ、ドロップキック……、あー！」

「ちひー。クビだー。一度と顔を見せるなー。」

「そ……んな……」

「すれぬく意識の中で、最後に店長の声が聞こえてきた。

「ちなみに、お客様として来るのは大歓迎だ」

家への帰り道、あいつがいた。俺を見ると、ニヤリと笑つて、バ

クテンをする。

そ、うか！

俺もバクテンに加わる。

バ、いと、ク、びに、さ、れ、た。テ、ン、ち、ょ、い、つ、い、ぞ、い。

## シンデレ

世の中には、シンデレとこうものがある。それは恐ろしく、且つ魅力的、だそうだ。

具体的な例を挙げよう。友人が言っていた。『押すなよ！絶対に押すなよ』、これは、シンデレであるらしい。

また、師匠いわく、シンデレとは、魚を食べながら、『私は魚なんて大つ嫌いなんだからっ！』と言つような人のことらしい。

そして、『押すなよ！絶対に押すなよ！』は、本当に押さなかつた場合、悲しまれるそうだ。本心では、押してほしいと、強く思つているらしい。

魚の例も、本心では魚が好きである、らしい。

この二つの例を考えてみると、簡単にシンデレを求める公式を作るとが出来る。

『シンデレとは、本心とは逆のことを言つ者のことだ。』この公式を、シンデレの公式と言つ。

ところで、当たり屋、という者がいる。実は彼等も、公式に当て嵌めると、シンデレだといつことが証明されるのだ。

当たり屋は、わざと車に轢かれ、轢いた者に怒りだす。だが、轢かれてくて轢かれたのに、怒るのはおかしいじゃないか。

ところで、最初の例、押すなよーの例を思い出してみよつ。

すると、当たり屋の行動は、最初に挙げた例が、実行前か実行後かの違いでしかないことが解るだろつ。

よつて、当たり屋はシンデレである。とこつ解を求めることが出来た。

恐らく、これがシンデレの恐ろしことこつ部分なのだろつ。当たり屋の被害に遭つた者は、財産を失う。

続いて、ほとんどの日本人。これもまた、シンデレなのだ。

みんなの者は、お世辞、とこつものを言つたことがあるだろつ。

お世辞とは、心にも思つていなじ言葉で、話し相手を褒めたたえるじひとだ。

もし、不快に思つている相手にお世辞を言つたことがあるなら、シンデレに定義されることになる。

これは、一番田の魚の例の応用だ。連立方程式で、両辺にマイナスをかけても良いのと回じことだ。

ちなみに、全てのシンデレは一つの例題を応用することによつて求められるため、例題を覚えていたら公式を覚えずに済む。

最後に、シンデレの魅力的な部分について考える。

いや、考える必要は無かつた。お世辞の例でわからきつていたこ

とじやないか。

例え嘘でも、褒められると嬉しい。これは、前の授業でやつたな。

『工への法則』、だ。

……誰か、この法則を覚えて……

## HACON

僕は空気が好きだ。初めてこのことを言つたとき、周りの皆は引いていた。

皆だつて、空気が好きなんぢやないのか?といつうか、空気を吸つて生きているぢやないか。

しかも、毎年夏には、「やっぱエアコンがあるつて最高だよな」とか言つてたくせに。

エアコンつて、エアーコンプレックスつて、意味だろ?

みんなエアコンに感謝していた。何故かは知らないけどさ。

うーん、そーか。僕みたいに空気が好きでたまらない人達が、何かいことしたんだな!

そういうえば、この前親が、「エアコンのスイッチ知らない?」と、僕に聞いてきた気がする。

家族に僕以外の空気好きはいない。つ、つまり、僕を動かすスイッチがあるつてことだ。

いいこと、スイッチ。

もしかして、僕たちエアコンには、地球を救うための使命的なものがあるんぢやないか?

しかも最近、省エネとか何だかで、Hアロンをつかうと、Hアロノンを使う頻度を下げようとかテレビでやつてた。

地球を救う、エネルギーを使つ。

わかつたぞ。空気好きは、巨大変身ロボットなんだ。スイッチを押すと変身して、怪獣とかをやつつけてるんだ。

うわー、すげー。そういえば学校にて、陰で僕のことを「空気」だとか言つてる人がいるけど、そいつ、僕のこと褒めてたんだな。

いやー照れるな。まあ、地球を救つてるんだから、そのくらい当然だよな。えへへ。

もしかしたら、僕のファンとかいたりして。いやいや、いくらなんでもそれはないよな。

おつと、もうこんな時間だ。早く帰ろつ。

「うわ、寒いなつー！」

家に帰ると、想像以上に寒くて驚いた。アレは、どうだ？

「……あつたあつた。ポチッとな」

パソコンのスイッチを押す。いやー、寒いときはもう暖っこいも  
使える。

パソコンって、便利だね！！

## ノーコン

「やーーい、ノーコン、ノーコン、

体育の時間、事件は起こった。突然、俺は「ノーコン」等と罵倒され始めたのだ。

「な、何故俺がノーコンだと分かつた!」

おかしい。学校では、誰にも俺の秘密を話していないはずだ。それなのに、皆、俺を「ノーコン」だと罵倒する。どこから情報がもれただんだ?

「いや、見ればわかるし」

見れば、わかるだと。そんな、俺はそんなにも脳好きオーラを出しているのか。いや、そんなバカな。

それに、俺が脳コンプレックスだとして、何故罵倒されなければならぬ?誰かに迷惑をかけたわけでもあるまいに。

「ノーコン、ノーコン」

くそ、どうすればいいんだ。

「み、みんな!ノーコンの何が悪いというんだ?」

「……いや、試合が進まないし」

「な、なにい！？」

試合が進まない、だと。馬鹿な。ノーロンで試合が進まない、といつことは、俺、気づかない内に脳の話しどかしちゃってたのか？

「ノーロン、ノーロン」

「みんなれば、正直に話すしかないか。

「みんなっ！聞いてくれ！」

「…………？」

全員が一斉にこちらを向く。少々緊張するが仕方ない。迷惑をかけたなら謝らなくてはならない。

「……俺は、確かにノーロンだ。脳が好きすぎてたまらない。寝るときには脳の写真を枕に置いて寝る。こんな俺だから、気づかない内に脳トークをしてしまったんだろう。だが、わざとじゃないんだ！ただ、脳が好きすぎるだけなんだ！！脳を、愛してるんだー！“めんな、みんな。もとい、脳の入れ物達！”

授業の終わりの鐘が鳴るまで、運動場は沈黙に包まれた。

そして、その日から、俺のあだ名は『脳コン』になつた。

## ノーパン（後書き）

登場語彙紹介

ノーパン

野球の投手などは、コントロールがないこと。

脳コン

生活に支障が出るほど脳が好き、もしくは脳に依存している者のこと。

最近、不治の病とこうものに罹ってしまった。テレビのドラマとかによくあるアレだ。

とは言つても、死んでしまつたりするわけではない。ただ、生活が少し不便になるだけだ。

例えば今、私はこんな風に文字を書いているのだが、ここは映画館。意識は映画に集中している。

そして、右手でポップコーンを食べ、左手で文字を書いてくる。

何故映画を観ながら文字を書いているのか疑問に思つだらう。実際、周りの席の奴らはちからむとこからを窺つている。やうやうとこちら、くくく。

こままで私のことを変人だと思われてしまふかもしれないな。早めに理由を書こう。河口に下降して恰好の的になつてゐる郭公を書こう。くくく。

とにかく私は、『しそうのうひ』になつてしまつてゐるのだ。周りの席の奴ら、私は変人じゃないというのが理解出来ただらう?

言つておぐが、いや書いておぐが、『しそうのうひ』とは言つても、歯槽膿漏などではない。思想膿漏だ。思想が膿んだり漏れたりするのだ。

まあ、ほとんどの人間は元から思想が膿んでいるだらうから、こ

ちりはあまり問題無い。

ただ、思想が漏れるというのが問題なのだ。街中で美人を見かけた時、もしも書くものを持つていなかつたら、「お姉さん美人だね。ぐへへへへ」などと言つてしまつ。書くものを持つていたとしても、こんなことを書いているのを見られると変人、いや変態だと思われてしまつだらう。

全く、思想が漏れるところのは大変だ。く、やばい。邪念が、出してしまつ、『悲劇の鬪病生活』って映画を観てゐるのに。

うわあ、このヒロインの脚、綺麗だな。げへへへ。や、やめる。書くな。俺の邪念を書くな。今は物語のクライマックス、泣き所だろ胸でかいな。げばげばげば。

げばげばってなんだよ。くそつ、こんな腕、止めてやる。いや、このペンを手放せば。

「ヒロインの一の腕、素晴らしい。超さわりてーよーーーぐふふふふ

！」

「しまつたー早くペンをー！」

周りの席の奴らが、私を奇特な物を見るかのような目で見てゐる。

とにかく言い訳を。思想膿漏とは、思想が漏れるだけでなく、膿むのだ。決して本心などではない。

証拠として、私は背中フェチなのだ。脚や胸、一の腕などに興味は無い。決してな。ぐへへ。本當だよ。ひひひ。絶対だからな。じ



## じゆうのくわい (後書き)

登場架空の病気紹介

思想膿漏

思想が漏れる病気。文字や声などで思想が漏れてしまう。本当は思想が膿んだりはしないのだが、この病気の患者が周りから白い目で見られるのを避けるため、政府は思想が膿むと発表した。決して歯槽膿漏とかけたわけではない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0683z/>

---

悪ふざけシリーズ

2011年12月25日23時02分発行